

基礎看護学（基礎看護学領域）

1 構 成 員

	平成 26 年 3 月 31 日現在	
教授	1 人	
病院教授	0 人	
准教授	1 人	
病院准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	0 人	(0 人)
病院講師	0 人	
助教（うち病院籍）	1 人	(0 人)
診療助教	0 人	
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人	
医員	0 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	0 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	2 人	
その他（技術補佐員等）	0 人	
合計	5 人	

2 教員の異動状況

片山 はるみ（教授）（H24.4.1～現職）

鈴木 美奈（准教授）（H23.7.1～H25.3.31 助教；H25.4.1～現職）

村松 妙子（助教）（H20.9.1～H25.3.31 教務補佐員；H25.4.1～現職）

下川 唯（教務補佐員）（H25.4.1～現職）

戸津 有美子（教務補佐員）（H25.4.1～現職）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 25 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	1 編	(1 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	4 編	(4 編)

そのインパクトファクターの合計	0.00
-----------------	------

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 中野貴美子, 佐藤一樹, 片山はるみ, 宮下光令: 終末期がん患者が「明るさを失わずに過ごす」ための医療者の支援の在り方, 緩和ケア, 23(3), 250-256, 2013.

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 片山はるみ, 鈴木美奈, 山本恵美子, 村松妙子: 「死のイメージ画」を用いた看護学生の死生観教育の効果, 平成 24 年のプロジェクト研究 (看護学科対象) 研究成果報告書, 2013 年 6 月 18 日.
2. 鈴木美奈: バイオフィルム形成によるカテーテル関連感染予防の基礎的検討、平成 24 年度若手研究プロジェクト研究成果報告書, 2013 年 6 月 21 日.

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 森下立秋, 鈴江毅, 平尾智広, 小山文彦, 久郷敏明, 藤岡秀夫, 森享子, 徳田恒治, 岡田恵子, 根本幸子, 片山はるみ, 岡田倫代: 平成 24 年度調査研究報告書, 職場におけるメンタルヘルス向上のための調査研究, 香川産業保健推進センター, 2013 年 3 月.
2. 白木渡, 永富太一, 宮前義和, 宮前淳子, 大久保智生, 平尾智広, 宮武伸行, 依田健志, 吉岡哲, 中山照美, 鈴江毅, 片山はるみ, 藤川愛, 岡田倫代, 辻よしみ, 坂野紀子: メンタルヘルスアップのための資料集, 香川県メンタルヘルス向上に関するプロジェクト, 2013 年 3 月.

5 医学研究費取得状況

(万円未満四捨五入)

	平成 25 年度	
(1) 文部科学省科学研究費	1 件	(170 万円)
(2) 厚生労働省科学研究費	0 件	(0 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件	(0 万円)
(4) 財団助成金	0 件	(0 万円)
(5) 受託研究または共同研究	0 件	(0 万円)
(6) 奨学寄附金その他 (民間より)	0 件	(0 万円)

(1) 文部科学省科学研究費

村松妙子, 若手研究 (B), 看護学生の倫理的感受性測定尺度の開発, 平成25年度～平成27年度, 170(万円)

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	0 件
(2) シンポジウム発表数	1 件	1 件

(3) 学会座長回数	0 件	0 件
(4) 学会開催回数	0 件	0 件
(5) 学会役員等回数	0 件	1 件
(6) 一般演題発表数	4 件	

(1) 国際学会等開催・参加

3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表

1. Katayama H, Suzuki M, Muramatsu T, Totsu Y, Shimogawa Y: Effect of drawing method-based program on attitude to life and death in nursing students. The 13th Hamamatsu-Kyungpook Joint Medical Symposium, Daegu, Korea, September, 2013.

5) 一般発表

口頭発表

1. Katayama H, Suzue T, Okada M, Fujikawa A, Tsuji Y, Miyake N, Sakano N, Yoda T, Yoshioka A, Nagatomi T, Shiraki W, Hirao T: Assessing the impact of competency-based training program for health volunteers on mental health, American public health association 141st Annual Meeting & Expo, Boston, MA, November, 2013.

ポスター発表

1. Katayama H, Eguchi H, Suzuki M, Yamamoto E, Muramatsu T, Totsu Y, Shimogawa Y, Suzue T: Effect of drawing method-based program on attitude to life and death in nursing student –A randomized controlled trial, The XXVII World Congress of The International Association for Suicide Prevention, Oslo, Norway, November, 2013.
2. Sasaki R, Katayama H: The relationship between the stress management self-efficacy and vocational readiness of nursing college students, 3rd World Academy of Nursing Science, Seoul, Korea, October, 2013.
3. Muramatsu T, Suzuki M, Shimogawa Y, Totsu Y, Katayama H: Ethical awareness and learning of nursing students who have experience in fundamental nursing practice, The 17th East Asian Forum of Nursing Scholars, Manila, Philippines, February, 2014.

(2) 国内学会の開催・参加

3) シンポジウム発表

1. 鈴木美奈: 看護ケアにおけるバイオフィルム形成細菌除去の基礎的検討, 第 11 回浜松医科大学シンポジウム、2013.11.29

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

片山はるみ 日本描画テスト・描画療法学会理事